

企画事業：先導的・モデル的な体験活動推進事業
「未来に残そう！九州地区高校生エコ in 阿蘇」事業報告書

企画指導専門職 八波 清彦

1 事業概要

(1) 実施期間

平成23年1月8日（土）～10日（月）

(2) 活動場所

阿蘇青少年交流の家・阿蘇市内草原

(3) 参加者・参加校

参加者：56名（参加生徒43名，引率者11名，ボランティア2名）

参加校：福岡県立柏陵高校 佐賀県立唐津青翔高校 長崎県立島原農業高校
大分県立玖珠農業高校 熊本県立水俣工業高校 熊本県立阿蘇清峰高校
熊本県立阿蘇中央高校 宮崎県立都農高校 鹿児島県立国分高校

(4) 事業内容

〔1日目〕午後 実践発表会 岡 裕二氏 土居 元氏
夜 意見交換会 岡 裕二氏 土居 元氏

〔2日目〕午前 フィールドワーク① 草原での輪地切り体験 中村 辰司氏
午後 フィールドワーク② 阿蘇の環境と自然について 内山 康二氏
夜 自然フォトテレーリング準備 土居 元氏 岡 裕二氏

〔3日目〕午前 自然フォトテレーリング 土居 元氏

2 成果と課題

(1) 成果

- ① 今回2泊3日で実施したことで、阿蘇のフィールドを使って輪地切り体験や草原維持や再生について参加者が理解を深めることができた。また、参加者の交流の時間を多く設定できたため九州地区の高校生の親睦が深まり、今後のネットワークの広がりにつながったと考える。
- ② 実践発表を通してそれぞれの学校の環境への取り組みを知ることができ、今後の環境への興味関心が参加者・引率者に深まったと考えられる。

(2) 課題

- ① フィールドワークは雪の降る中での実施だったが、防寒対策を周知していたができていない生徒がいたため、時間を短縮して実施する場面があった。
- ② ポスターセッション形式で実践発表を行ったが、パワーポイントを使つての発表が多く、質問しづらい場面が見られた。

(3) 今後の方向性

- ① 冬季の実施は積雪などフィールドワーク実施時の天候で活動が制限される場面が出てくるため、学校行事などの予定を考慮しながら来年度は実施日を検討する必要がある。
- ② 実践発表の形態を考慮し、来年度はパワーポイントではなく、参加校すべてにポスターを作成し参加してもらい、参加同士の意見が活発に出せるような実践発表にする。
- ③ 今回の事業ではフィールドワークを通して阿蘇の自然や環境について関心が深まったことから、来年度も活動にフィールドワークを入れることが望ましいと考える。

3 活動の様子



開会式（阿蘇青少年交流の家）



実践発表会の様子



実践発表会の様子



意見交換会での名刺交換



環境について話し合ったことの発表



中村辰司氏による輪地切り実演



輪地切り体験の様子



山内康二氏によるフィールドワーク